

小学校第6学年 道徳学習指導案

期 日 平成21年7月9日(木)第5校時
場 所 人吉市立中原小学校 6年2組教室
指導者 教諭 富永 真理

- 1 主題名 [2-(3) 信頼友情]
資料名 「明日香と弥生」

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

第5学年及び第6学年の2-(3)は「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲良く協力し助け合う。」ことをねらいとしている。これは、第1・第2学年の2-(3)「友達と仲良くし、助け合う。」こと、および第3・第4学年の2-(3)「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」ことを受けたもので、中学校の2-(3)「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。」に発展していくものである。

高学年になると、これまで以上に友達を意識し、仲のよい友達との絆を深めていく。流行にも敏感になり、興味や嗜好を同じくする閉鎖的な仲間集団を作る傾向も見られるようになる。そのため、疎外感を感じたり、友達関係で悩んだりすることがこれまで以上に見られるようになり、健全な友達関係を築いていくことが重要となる。また、友達同士の信頼の下に、協力して学び合う活動を通して互いに高め合うような真の友情を育てていくことが強く求められる。

(2) 児童の実態について

本学級は男子12名、女子16名、計28名の学級である。

道徳性の実態調査では、「本当の友達がいるか」という質問に対して、96%(27名)の児童が「いる」と答え、「友達がいてよかったと思うことはあるか」という質問では、89%(25名)の児童が「ある」と答えた。

「ある」と答えた理由として、「相談にのってくれる」28%(8名)、「遊んでくれる」20%(6名)、「困ったときに助けてくれる」20%(6名)などが挙げられた。

また、「本当の友達」について、

「悪いことは注意してくれる」18%(5名)

「助けてくれる」「けんかしてもすぐ仲直りできる」各14%(各4名)

「相談にのってくれる」「自分のことを分かってくれる」各10%(各3名)

「遊んでくれる」「うらぎらない」「何でも話せる」各7%(各2名)

といった考えを持っている。

道徳性の意識調査では、次の問題場面を設定した。

●問題場面

今日は、修学旅行です。みんなガイドさんの説明を聞き、楽しくバスの中で過ごしています。ところが、隣の席の友達がきまりを破って持ってきたゲーム機で、他のみんなには分からないようにゲームを始めました。ガイドさんの話も聞かず夢中になってゲームをしています。

●[そんな時、あなたは どう する と思いますか]

ア 「ゲームをやめた方がいいよ。」と言う。	13名
イ 先生などにゲームをしていることを知らせる。	6名
ウ だまっている。	4名
エ 後でその子がいらない所で他の友達にそのことを言う。	3名
オ 近くの人に知らせて、みんなと一緒にゲームをする。	1名

意識調査の結果、あなたは どう する と思いますか の設問に対しア「『ゲームをやめた方がいいよ』と言う」と答えた児童が13名でクラスの約半数であった。選択した理由として「きま

りを守っていないから」6名、「自分も他の人も困るから」「みんなと楽しく過ごすことが大切だと思うから」各4名、「悪いことをしていると思うから」3名であり、比較的高い価値観で判断している。

その一方で、イ～オを選択した児童の多くが自分にとって都合がよいからやいじめられるから、または自分の楽しみであるなどのように、比較的低い価値観で判断している。

アを選択した児童も、実際の生活の場面では、様々な理由から友達に注意する場面は少ない。また、日々の生活では、児童は閉鎖的な仲間集団で行動していることが多い。友達が困っていても、自分の利益にならなければ助けないなど、真の友情で結び付いているとは言えない状況も見られる。

(3) 資料について

本資料の内容は、次のとおりである。

明日香と弥生は学芸会でのナレーター役のオーディションに向け、練習に励んでいた。オーディションの結果、ナレーター役は明日香に決まり、弥生は悔しい思いをしていた。学芸会前日、明日香の父親が交通事故に遭う。そのため明日香の代わりに弥生がナレーター役を務めるが、複雑な気持ちのまま終える。学芸会に出られなかった明日香は弥生からの手紙を読み、友達の大切さを感じる。

(4) 指導にあたっては、次の点に留意する。

- 導入では、事前のアンケートを活用し、友達のよさについてとらえさせる。
- 基本発問を効率的に行うために挿絵などを掲示する。
- 登場人物の心の動きが視覚的にも分かるように板書を工夫する。
- 一人一人に考えを持たせるためにワークシートを活用する。
- お互いの思いや考えを交流し合い、自分の思いや考えを振り返るため、意見を交流する場面を設定する。

〈人権教育の視点〉

意見を交流する場面では、自分の考え以外に、様々な考え方があることに気付き、友達の考えをしっかりと受け止めそれを認めようとする態度を育てる。

〈思考力、判断力、表現力の育成に関する視点〉

学習の流れが児童にも分かるように板書を工夫し、児童が思考しやすい環境を作る。ワークシートを活用し、自分なりの考えを持たせ、教師が事前に評価することで、自信を持って発表ができるようにする。

また、すべての児童が自分の考えや意見を表現できるように少人数での学習の場を設定する。

〈熊本型授業の具体的展開に関する視点〉

資料を事前に読ませることで、登場人物の気持ちに共感できるようにし、児童の考えを深められるようにする。また、個人→少人数→一斉の学習形態をとり、児童が主体的に自分の考えを表現できるようにする。児童の意見や考えを交流させ、それを活かして授業を展開していく。

〈情報モラル教育との関連〉

本主題は、情報モラル教育での「情報に関する自分や他者の権利を尊重する」、「発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ」という目標において、「自分と異なる意見や立場を尊重する」、「相手の状況を踏まえて、情報を発信する」という活動につながる内容として設定する。

3 資料分析

(話の流れ)	(登場人物の行動と心の動き)				(学習活動や主な発問)
	〈弥生の行動と心の動き〉		〈明日香の行動と心の動き〉		
					1 友達がいってよかったことを出し合う
オーディション 3 日前	○家で何回も練習する	・やっぱり明日香は上手だ ・負けたくない	○休み時間も練習に励む	・ナレーター役になりたい	2 資料を読んで話し合う
オーディションの結果、明日香がナレーター役に決まる		・自分なりに練習をしたのに、ナレーターになれずくやしい		・ナレーターになれて嬉しい	(1)オーディション3日前の二人はどんな気持ちですか
学芸会前日(11/14) 明日香の父が交通事故に遭い、入院する		・明日香のお父さんは大丈夫だろうか ・ナレーター役はどうなるのだろう ・わたしに回ってくるのだろうか	○学校を休み、病院へ行く		(2)明日香が学芸会に出られないと分かったときに、弥生はどんな気持ちだったでしょう
学芸会当日(11/14) 先生がナレーター役を弥生に頼む 明日香の父の手術日	○複雑な気持ちで引き受ける ○明日香も明日香のお父さんのことも心配になる ○明日香に手紙を書き、届ける	・あんなにやりたかったのに、やり終えてもよかったと思えない	○病院で祈り続ける ○父の手術後、帰宅し疲れから発熱で寝込む	・どうしても学芸会に出たい ・お父さんを助けて下さい	(3)学芸会でナレーター役をやり終えた弥生はどんな気持ちだったでしょう
学芸会の次の日(11/16)	○明日香に2通目の手紙を書き、届ける	・明日香は元気だろうか	○熱が下がり、弥生からの手紙を読む ○目から涙がこぼれる ○体の中から元気がわいてくる	・弥生からの手紙、とてもうれしい	(4)弥生からの手紙を読んでいるとき、明日香はどんな気持ちだったでしょう
互いに理解し合い、信頼し合って真の友情を育てていこうとする態度を育てる。					
					3 今まで、友達についてどのように考えていたか振り返る

4 本時の学習

(1) ねらい 互いに理解し合い、信頼し合って真の友情を育てていこうとする態度を育てる。

(2) 展開

過程	学習活動【学習形態】	徹底能動	主な発問・指示等	教師の指導及び評価	備考
気 付 く 3分	1 アンケート結果をもとに本時のめあてをつかむ。	徹底	T 友達がいてよかったと思ったことについてのアンケート結果です。 C 僕は、嫌なことがあったとき、相談にのってくれたと書いたな。 C 遊んでくれるというのは私と一緒にだ。	○友達のよさについてのアンケート結果を発表することで価値への方向付けを行う。	
と ら え る 24分	2「明日香と弥生」について、話し合う。 (1)自分なりの考えを持つ【個人】 (2)互いの考えを交流する【一斉】	徹底	T 明日香や弥生について、分かっていることは何ですか。 C 明日香は放送委員長。 C 弥生は明日香に手紙を書いた。 T 明日香が学芸会に出られないと分かったとき、弥生はどんな気持ちだったでしょう。 C 明日香には悪いが、ナレーターになれてうれしい。 C 明日香のお父さんは大丈夫だろうか。 T 学芸会でナレーター役をやり終えた弥生はどんな気持ちだったでしょう。 C 自分なりに頑張った。 C 念願のナレーター役ができたのにすっきりしない。	○明日香と弥生の関係や気持ちを明らかにしておく。 ○複雑な気持ちで引き受けた弥生の気持ちをつかませる。 ○弥生の複雑な気持ちを理由も聞くことでつかませる。	教材文 挿絵
	(1)自分なりの考えを持つ【個人】 (2)少人数で交流し合う (3)互いの考えを交流する【一斉】	能動	弥生からの手紙を読んでいるとき、明日香はどんな気持ちだったでしょう。 C 私のことをすごく思ってくれてうれしい。 C これからも弥生さんと仲よくしていこう。 理由 ・お父さんの事もとても心配してくれたから。 ・励ましてくれたから。	○手紙を読んだときの明日香の気持ちに共感させるために、理由も明らかにさせる。 ○全体での話し合いを通して様々な価値観に触れさせる。	ワークシート
深 め る 15分	3これまでの自分の生活と重ねながら、考えをまとめる。 (1)自分なりの考えを持つ【個人】 (2)互いの考えを交流する【一斉】	能動	T これからどんな友達づきあいをしていきたいですか。 C ただ一緒に遊ぶのが友達だと思っていたけど、これからは相手を思いやる関係になりたい。 C これからは学び合える友達づきあいをしていきたい。 C 相手の心を元気にできるようにしていきたい。	○友達について様々な考えを出し合い、認め合うことで、望ましい友達像を考えさせる。 評価 互いに理解し合い、信頼し合う大切さに気づき、真の友情を築こうとしている。 【ワークシート・観察】	
つ な げ る 3分	4実践化への意欲を持つ。	徹底	T 手紙を紹介します。 C 僕は読む人のことを考えながら書いていこう。 C 相手を思いやるって大切だな。	○相手を思いやり、理解し合ったり、内容の手紙を紹介する。	

中原小学校 第6学年 情報モラルと道德との関連表

情報モラル	道德の時間	各教科・特別活動・日常活動 他
◆発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ。 ▼ネット上の迷惑行為にどのようなものがあるかを知る。 ▼相手の状況を踏まえて、情報発信する。	学び合って 「明日香と弥生」 2-(3) 信頼友情 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。 【本時】	学級活動・日常活動 班活動や係活動で、自律的で責任のある行動をする。
	責任ある行動 「頂上はすぐそこに」 1-(3) 自由・規律 自由を大切にし、自律的で責任のある行動をしようとする態度を養う。	国語科 「自分の考えを発信しよう」 図書やインターネットや資料から情報を集め、自分の考えの裏付けや立場をはっきりさせて発表する。
	きまりを守る 「図書館員のなやみ」 4-(1) 規則尊重・公德心・権利義務 公德心を持って法やきまりを守り、自他の権利を大切にし、進んで義務を果たそうとする態度を養う。	総合的な学習の時間 「インターネットで調べよう」 インターネットで収集した資料や画像の保存の仕方を身に付けるとともに、情報収集の際の注意事項(著作権等)を知る。
◆情報に関する自分や他者の権利を尊重する。 ▼自分と異なる意見や立場を尊重する。 ▼人の著作物には、著作権があることを知り、尊重する。		図工科 「鑑賞」 自分自身の作品だけでなく友達作品や、美術品を作った人の工夫やアイデアを尊重し、大切に扱うにはどうすればよいか考えさせることを通して、著作物に対する意識を高める。
		学級活動・日常活動 図書館の利用において、自他の権利を大切にし、公德心を持ってきまりを守る行動をする。